

「創造活動・24 時間学校 (6)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

(12) いつもの教室で一緒に眠る

「きもだめし」「半月見」が終わって、あとは寝るだけである。今回は「眠る」ことが一番大切な仕事だ。



まずは、「大歯磨き大会」いつもの、トイレのあとや給食前に手を洗うだけの流しで、みんなで歯磨きをすることも初めての体験で、大騒ぎしながら楽しく歯磨きをしていた。



消灯は午後 8 時半。子どもたちの普段の生活から見ると、少し早目かもしれない。徐々に部屋の照明を落として、8 時半には真っ暗にした。子どもたちは案外素直に、静かに横になってくれた。ここまでの疲れが一気に出て、寝心地の悪い段ボールなのに、ほどなくあちこちから寝息の音が聞こえてきた。

普段寝る時にそばに置く、「小さなぬいぐるみ」か「ボロ」(布切れ)を許可していたので、それを抱いている子どもが多かった。その匂いがかぐと、家の寝床を思い出して、安心して眠れる子どもが多いのだ。

(13) 片付けと閉校式

翌朝の起床は 6 時半。上学年の林間学校と同じで、6 時を過ぎたあたりから、あちこちで話し声が聞こえ出す。しかし 6 時半までは、トイレ以外は「外出禁止」なので、寝床で静かにしているように話した。

起床後は、着替え、洗面を済ませて、誰もいない校庭で少し自由時間。その後朝食をとった。朝食は「クロワッサン (フランス語で「三日月」)」「バナナ」「オレンジジュース」と、ちょっと豪華だった。



朝食のあとは、片づけが待っていた。一夜を共にした「寝床」をリサイクルに回す。「さようなら!」「ありがとう!」と言いながら運んでいる子どもがいたのが、印象的だった。



最後に、スナフキンのように手早く荷物をまとめて、ピロティ (校舎軒下の全天候広場) で閉校式をした。ここでも「みがく委員」(学年の子ども委員)が大活躍。各クラス 2 名の委員が、それぞれ印象的な「終わりの言葉」を紹介してくれた。

寝食を共にしたこの 24 時間の創造活動で、子どもたちは何を感じ、何を学び、どんな成長をしたのだろうか。印象が薄れないうちに、その振り返りの活動も是非したいと思っている。